

神奈川県公立高等学校入学者選抜学力検査問題

共通選抜 全日制の課程

II 国語

注意事項

- 1 開始の合図があるまで、この問題冊子を開いてはいけません。
- 2 問題は問五まであり、1ページから14ページに印刷されています。
- 3 答えは、解答用紙の決められた欄に、記入またはマークしなさい。
- 4 数字や文字などを記述して解答する場合は、解答欄からはみ出さないように、はつきり書き入れなさい。
- 5 マークシート方式により解答する場合は、その番号の○の中を塗りつぶしなさい。
- 6 解答用紙にマス目（例：）がある場合は、句読点などもそれぞれ一字と数え、必ず一マスに一字ずつ書きなさい。なお、行の最後のマス目には、文字と句読点などを一緒に置かず、句読点などは次の行の最初のマス目に書き入れなさい。
- 7 終了の合図があつたら、すぐに解答をやめなさい。

受検番号

番

問一 次の問いに答えなさい。

(ア)

次の1～4の各文中の——線をつけた漢字の読み方を、ひらがなを使って現代仮名遣いで書きなさい。

1 元気よく挨拶する。

2 政権を掌握する。

3 憎別の念を抱く。

4 無事に目的を遂げる。

(イ) 次のa～dの各文中の——線をつけたカタカナを漢字に表したとき、その漢字と同じ漢字を含むものを、あとの中から一つずつ選び、その番号を答えなさい。

a エンチュウの体積を求める。

1 ピアノをエンソウする。

2 会議をエンカツに進める。

3 友人とソエンになる。

4 ガンエンを料理に使う。

b 会員としてトウロクする。

1 富士山のトウチヨウに成功する。

2 伝家のホウトウを抜く。

3 熊がトウミンする。

4 国会でトウシユが討論を行う。

c 公民館のキソクを守って楽しむ。

1 太陽の動きをカンソクする。

2 ヤクソクを果たす。

3 管理に関するサイソクを定める。

4 キュウソクをとる。

d 税金をオサめる。

1 関係をシユウフクする。

2 ストーブにキュウユする。

3 運動会をケツセキする。

4 毎日ナットウを食べる。

(ウ)

次の例文中の——線をつけた「に」と同じ意味で用いられている「に」を含む文を、あとの中から一つ選び、その番号を答えなさい。

例文 すでに支度を済ませた。

1 今朝は特に冷え込んだ。

2 彼女は穏やかに話す。

3 景色に目を奪われた。

4 寒いのに薄着で過ごす。

(エ) 次の俳句を説明したものとして最も適するものを、あとの中から一つ選び、その番号を答えなさい。

鷺の空書齋はひく、ありと思ふ

山口 青邨

1 書齋で悲しげに鳴く鷺の声を聞き、狭い室内ではなく広い空こそが鷺にとっての居場所だと感じ、放つことを決意したまま、「鷺」という語を句の頭に置くことで印象深く描いている。

2 しきりに鳴く鷺に誘われ、閉じこもっていた書齋から出て実感した秋空の雄大さと、季節の移ろいに気付かせてくれた鷺に対する深い思いを、「鷺の空」という語句で象徴的に描いている。

3 行き詰まっている自身の現状を、「書齋はひく、あり」という語句で明確に示すと同時に、広い空を飛んでいる鷺を見て抱いた自由への憧れを、明るい将来への希望を交えて描いている。

4 書齋に聞こえてくる鷺の声に、開放的な秋空の明るさや高さが想起されるとともに、書齋やそこにいる自身が対照的に意識された感概を、直接的に「思ふ」という語を用いて描いている。

問二 次の文章を読んで、あととの間に答へなさい。

「尼」^{あま}は、自身で仏像を描き写した絵（絵仏）を寺へ安置して熱心に拝んでいたが、しばらく寺を離れている間に、その絵仏は盗まれてしまった。

尼悲しげ嘆きて、堪ふるに隨ひて東西を求むといへども、たづね得ることなし。しかるにこのことを嘆き悲しみて、放生を行ぜむと思ひて、摂津の國の難波^{なには}^(注)のあたりに行きぬ。河のあたりに徘徊する間、市より帰る人多かり。見れば荷^{にな}^(注)へる箱を樹の上に置けり。主は見えず。尼聞けば、この箱の中に種々の生類の音^(声)あり。これ畜生^{ちくしやう}の類を入れたるなりけりと思ひて、必ずこれを買ひて放たむと思ひて、しばらく留^{とど}まりて箱の主の来るを待つ。

やや久しくありて箱の主来れり。尼これに会ひて曰はく、「この箱の中に種々の生類の音あり。われ放生のために来れり。これを買はむと思ふ故になんぢを待つなり。」と。箱の主答へて曰はく、「これさらに生類を入れたるにあらず。」と。尼なほ固くこれを乞ふに、箱の主、「生類にあらず。」と争ふ。その時に市人等來り集まりて、このことを聞きて曰はく、「すみやかにその箱を開けてその虚実を見るべし。」と。しかるに箱の主あからさまに立ち去るやうにて、箱を捨てて失せぬ。たづぬといへども行き方を知らず。早く逃げぬるなりけりと知りて、そののち、箱を開けて見れば、中に盗まれにし絵仏の像おはします。尼これを見て、涙を流して喜び悲しげて、市人等に向かひて曰はく、「われ、前にこの仏の像を失ひて、日夜に求め恋ひたてまつりつるに、今思はざるに会ひたてまつれり。うれしきかな。」と。市人等これを聞きて、尼を讃め尊び、箱の主の逃げぬることをことわりなりと思ひて、憎みそしりけり。尼これを喜びて、いよいよ放生を行ひて帰りぬ。仏をば元の寺にゐてたてまつりて、安置したてまつりけり。

これを思ふに、仏の、箱の中にして音を出だして尼に聞かしめたまひけるが、あはれにかなしく尊きなり。

(注) 放生=徳を積むために、捕らえた生き物を放す行いのこと。

摂津の國の難波のあたり=現在の大坂市周辺。

畜生=鳥や獸、虫などの総称。

(「今昔物語集」から。)

(ア) ━ 線1 「必ずこれを買ひて放たむ」とあるが、「尼」がそのように思つた理由を説明したものとして最も適するものを次の中から一つ選び、その番号を答えなさい。

- 1 絵仮を探す道中で、生き物の声がする箱を見つけ、放生を行つて絵仮を盗まれた悲しみを癒すこと
- を思いついたから。

- 2 盗まれた絵仮を見つけ出すことができず、放生を行おうと考えて訪れた場所で、生き物の声がする箱を見つけたから。

- 3 盗まれた絵仮の情報を得ようと訪れた市場で、生き物の入った箱が売られているのを見て、放生に最適だと気付いたから。

- 4 絵仮を盗まれた罪悪感を消すため、放生を行いながら歩いていたところ、樹の上に置かれた箱から生き物の声がしたから。

(イ) ━ 線2 「すみやかにその箱を開けてその虚実を見るべし。」とあるが、「市人等」がそのように言つた理由を説明したものとして最も適するものを次の中から一つ選び、その番号を答えなさい。

- 1 放生のために箱を求める「尼」と、生き物は入れていないと主張する「箱の主」が争つっていたから。

- 2 生き物の入った箱を譲つてほしい「尼」と、生き物を手放さたくない「箱の主」が争つていたから。

- 3 自分が放生を行ふべきだと訴える「尼」と、自らの手で放生を行いたい「箱の主」が争つていたから。

- 4 生き物の声がしたと指摘する「尼」と、何も入っていないとそをつく「箱の主」が争つていたから。

(ウ) ━ 線3 「尼を讃め尊び、箱の主の逃げぬることをことわりなりと思ひて、憎みそしりけり。」とあるが、それを説明したものとして最も適するものを次の中から一つ選び、その番号を答えなさい。

- 1 「市人等」は「尼」の話を聞き、絵仮の入った箱を取り戻した「尼」を祝福するとともに、「尼」の箱を盗んだ「箱の主」が放生に参加せず去ったのは当然だと非難した。

- 2 「市人等」は「尼」の話を聞き、盗まれた絵仮を見つけた「尼」をたたえるとともに、悪事を働いたことを悔やんだ「箱の主」が人知れず姿を消したのはもつともなことだと非難した。

- 3 「市人等」は「尼」の話を聞き、絵仮を強く求め続けた「尼」を賞賛するとともに、「尼」の絵仮を盗んだ「箱の主」が逃げ出したのはもつともなことだと非難した。

- 4 「市人等」は「尼」の話を聞き、生き物の命を救つた「尼」をほめるとともに、必要以上に生き物を捕らえていた「箱の主」が逃げたのはもつともなことだと非難した。

(エ) 本文の内容と一致するものを次の中から一つ選び、その番号を答えなさい。

- 1 「仏」が応えてくれると信じて放生を行つた「尼」は、絵仮を無事に取り返すことができたため、今後も熱心に絵仮を拝もうと心に決めた。

- 2 探していた絵仮を見つけることができた「尼」は、「箱の主」や「市人等」に放生を行うことの大切さを説いたのち、絵仮を寺へ持ち帰つた。

- 3 「尼」は絵仮を盗んだ「箱の主」を許しただけではなく、ともに放生を行うことによつて罪を悔い改めさせたため、「市人等」から尊敬された。

- 4 「仏」が箱の中から存在を知らせたおかげで、盗まれた絵仮を無事に取り戻すことができた「尼」は放生を行い、絵仮を元の寺に安置した。

問三 次の文章を読んで、あとの間に答へなさい。

花火屋「鍵屋」の主人である六代目「弥兵衛」は、飢饉の影響を受けている江戸の町や人々を活気づけるため、数か月後に開催される水神祭で花火を打ち上げようと計画し、ともに働く「京次（京さん）」「元太」「喜助」「新蔵」も賛同した。「弥兵衛」たちは資金の援助を頼もうと、手分けして茶屋や屋台、船宿などに出向いたものの、良い返事は得られずにいた。

江戸っ子の心意気つてのを、忘れちまつたのかねえ。何をするにも気持ちが第一じゃねえか。皆で元気を出そうつてのに、何で分からんかねえ——不平不満が撒き散らされてゆく。弥兵衛も始めは同じ気持ちだが、聞いているうちに少し違う思いが生まれてきた。

「……どうして。」

¹ 悪口雜言の飛び交う中、小声で自問した。

どうしてなのだろう。鍵屋の皆は、こう言つてくれるのに。分かつてくれるのに。なぜ、茶屋や屋台には通じないのだろう。(注)西詰の店も同じだ。

今のご時世が悪いからには違ひあるまい。が、そのせいだとばかり思うのは、いささか手前勝手に過ぎる氣もする。

自分は、何か見落としていないか。

「茶屋も屋台も、しみつたれたこと言いやがつて。旦那はよう、世の中のためにやろうとしてんじやねえか。」「ねえ旦那さん。もう、やめちまいましょうよ。何が正しいか分からねえ奴らなんて、勝手に野垂れ死にすりやいいんだ。」

京次と元太が怒りのやり場を探している。弥兵衛は二人の言葉をゆっくり曇み碎いた。

世の中のために。京次の言うとおり、自分はそのつもりである。

何が正しいか分からぬ奴らなど。元太の言うとおり、放つて置いても良いはずだ。だが。

正しいとは何だろう。

世のためとは、いつたい何なのだろう。

分からなくなってきた。

作事場の面々はまだ言い足りないらしく、あれこれの文句を繰り返している。

うんざりしたように、(注)市兵衛が「うるせえなあ。」とぼやいた。

「おい元太。口動かしての暇があつたら、手え動かせ。」

「そつは言うけどねえ、父つあんよう。旦那さんは世のため人のため、正しいこと、しようとしてんですぜ。なのに誰も分からねえなんて、情けねえたあ思ひやせんか。」

「正しいとか何とかほざくならよ、おめえが何者か考えな。花火屋だろ。だつたら夕飯の賄いまで、手え動かして火薬作んのが正しいんじやねえのかい。」

² 言われた元太はむつりとした顔になり、そっぽを向いて「はいよ。」と応じた。

「父つあんの仰るとおりでござります。手え動かすのが正しい。ええ、正しいですとも。」

いつものやり取りである。だが、そんな珍しくもない言葉が、弥兵衛の胸に深く刺さった。

「正しい……か。ねえ喜助さん。元太さんも。あたしは、本当に正しいんですかね。」

俯いたまま問うた。元太は「え。」と言つたきり何も返せずにいる。

市兵衛は「おや。」と何かを感じた。誰かの——左側にいる市兵衛の気配が変わっている。ここしばらく癪に障る物腰が続いていたのだが、どうしたのだろう。

そういう戸惑いを余所に、正面で背を丸める新蔵が、なよなよした声を寄越した。

「本当に正しいのかって、そんな。こないだの銀六さんと仙吉さんでしたつけ。あの二人と旦那様の話……あつし、目頭が熱くなつて仕方なかつたんですから。今さら、あれが間違いだつたつて言われたら、どうすりやいいんです。同じ気持ちで茶屋の人たちも誘つてんでしょう？」だつたら正しいに決まつてますよ。」

市兵衛は俯いた顔を上げ、小さく笑みを浮かべて頷く。聞きたいのは、そういうことではなかつた。

果たして自分は、本当に正しかつたのか。

水茶屋も屋台の衆も、商いの何たるかを忘れている。人々の心が暗闇に押し込まれ、半年以上も上手く行かずにきたからだろ。鍵屋も他と同じ、去年の夏はろくに稼げず蓄えを吐き出し、切り詰めて切り詰めて、どうにかなつている格好だ。

それでも、自分は踏ん張ろうとしている。こんなご時世だからこそ、何を糞と歯を食い縛らねばならないのだ。父にそう育てられだし、努めてそう生きようと自らを戒めてきた。

だから、それで当然だと思つていた。しかし――。

「河原の蒲公英。」

ぽつりと漏れた。船宿を回つた後の^{(注)おおかわばた}大川端が、頭に蘇る。あの日、思つたではないか。お天道様の機嫌が直れば、野の草はまた花を咲かせる。だが、人はそう簡単ではないのだと。

「……そうだね。」

誰もが氣を塞いだままでは、世の中は良くならない。これは確かな話だ。ひとりひとりが「やつてやる。」の意氣を持つて、初めて全てが良い方に転がる。

しかし、だから自分と同じ心を持てと言つて回るのは、違うのかも知れない。周りにいる皆、分かつてくれる人ばかりを見て、そこを勘^{(注)かん}違いしていたのであるまい。

「正しい、か。そいつは……腹が立つだろうねえ。」

「へえ?」

市兵衛が口を開いた。

横目に見れば、七十も近い頬が少しばかり緩んだかに見えた。

それによつて、胸を包んだ霧が晴れたような気がする。参つた。これぞ年の功だ。

³ 市兵衛はこちらの苦笑をちらりと一瞥し、それと分からぬくらいに頷くと、もそりと立ち上がり^{(注)あがく}つて行灯に歩を進めた。

そうだ。自分は勘違いしていた。

このところ市兵衛の物言いに嫌気が差していた。しかし、ずっとそうだつた訳ではない。水神祭で花火を上げよう、世の中を明るくしようと話した時には、他の人々と同じに奮い立つていたのだ。変わつたのは、幕府から金が出ないと決まり、その分を皆から集めようと考へてからである。

両国橋西詰の店に金を出してくれと頼んだ。屋台を呼び、掘つ立て小屋を作つて出店を募^{(注)ほ}らうとした。どちらも断られたが、間違ひなく良案である。そして自分は正しかつた。

しかし。花火屋なら手を動かすのが「正しい。」と言われた時の元太を見て、やつと分かつた。自分は

いい気になつていた。良案を捻り出して、浮かれていたのだ。

何が正しいかは、きっと誰にも分かつてゐるのだろう。とは言いつつ、踏ん切りを付けられるかどうかは人それぞれだ。同じでなど、あらうはずがない。自分が正しいからと言つて、他人にも同じであれと押し付ける。それは、驕りだ。

「あたしは正しかつた。でも、間違つてたんだ。」

誰も口を開かない。弥兵衛はぐつと奥歯を嚙んだ。日が傾き、作事場は暗さを増している。左手の奥では、市兵衛がいつもどおりの顔で行灯に火を入れていた。

「あの、旦那様。あつし……どうしたらいんですか？」

新藏が頼りなげに問う。不思議とおかしさが湧いてきた。

「はは……。ははは、はは！ あつははははははっ。」

静かに漏れた笑いは、すぐに天を仰いでの大笑いに変わつた。市兵衛を除いて皆が身を強張らせ、新藏に至つては「うひい」と腰を抜かしている。

弥兵衛は笑いながら「すみませんね。」と詫び、涙目の新藏に向いて力強く言つた。

「どうしたらも何もありません。やると決めたら、やるんです。明日も屋台回りですからね。それから小屋の方、材木の仕入れなんかも遅れないでくださいよ。こき使つて申し訳ないけどさ。」

そして、ひとりずつ顔を見た。

「あたしと喜助さんは茶屋回りだ。元太さんに京さん、火薬は山ほど要りますから、まだまだ作り増してもらいますよ。市兵衛さんも、たっぷり星を固めといてください。」

市兵衛が、にやりと笑みを見せる。元太と京次は、狐に摘まれたように「へえ。」と返した。

喜助から、戸惑いがちな問い合わせられた。

「やる、つてのは構わねえんですがね。後払いだの手間賃だのは、どうすんです。」

「聞いてやんなさい。当たり前でしきょう。」

世に明るさを取り戻したい。そのために動こうと言うのなら、高みに立つていてはならないのだ。尻込みする者があれば、そこまで下りて行き、まず光明を見せねばならない。全ての人が自分と同じではないのだから。「うちが全部被る羽目になるかも、ですぜ。」

5 市兵衛が釘を刺した。ただし、この上なく穏やかな声である。弥兵衛は「ええ。」と眼差しに力を込めた。
「しくじれば鍵屋は傾くでしょうけどね。それでも、やるんです。言いだしつへは、あたしなんだ。出店を頼む相手だけじゃない、うちも縣命でなけりや……でしきょう？」

「まあ、そうでさあね。」

市兵衛の物腰に、もう嫌なものは見えない。安堵したような眼差しがある。弥兵衛は自らを恥じる笑みで応じた。

(吉川 永青 「憂き夜に花を」から。一部表記を改めたところがある。)

(注) 西詰^ノ橋の西側の端を指す。ここでは、現在の東京都にある両国橋の西端のこと。

市兵衛^ノ先代の頃から「鍵屋」を支えてきた職人。

銀六さんと仙吉さん^ノ「弥兵衛」が「鍵屋」へ呼び、夕飯をふるまつたことのある町人。

大川端^ノ現在の東京都を流れる隅田川(当時は大川)下流の右岸一帯。

星^ノ花火が開いた時に花弁の部分を形作る、火薬を練り固めたもの。

(ア)

——線1 「悪口雜言の飛び交う中、小声で自問した。」とあるが、そのときの「弔兵衛」を説明したものとして最も適するものを次の中から一つ選び、その番号を答えなさい。

1 江戸っ子の心意気を茶屋や屋台の人々が失っていることに腹を立てていたが、自分たち以外の人を巻き込もうとする自体が身勝手なのではないかと悩み始めている。

2 自分たちの考え方を理解してくれない茶屋や屋台の人々に対してもうとすることを理解しているが、自分たち以外の人を汚く罵つてしまつた自分たちは卑劣なのではないかと後悔し始めている。

3 世の中のために団結することを決意した茶屋や屋台の人々に對していらだつていたが、怒りに任せて口汚く罵つてしまつた自分たちは卑劣なのではないかと後悔し始めている。

4 飢饉に対する不満を漏らす皆に同調して世の中を憂いていたが、茶屋や屋台の人々が協力的でない原因を時世に求めることが間違つてゐるのではないかと感じ始めている。

(イ) ——線2 「言われた元太はむつつりとした顔になり、そっぽを向いて『はいよ。』と応じた。」とあるが、そのときの「元太」を説明したものとして最も適するものを次の中から一つ選び、その番号を答えなさい。

1 人のために奔走する「弔兵衛」とは違い、「鍵屋」の利益にしか興味がない「市兵衛」の視野の狭さは改めてほしいが、未熟な自分は意見できる立場ではないと諦め、投げやりになつてゐる。

2 目の前の作業に専念するべきだという「市兵衛」の言葉を聞いて、感動を覚えるとともに、「弔兵衛」や自分たちの考え方が間違つてゐることが分かつたものの、素直に認められずにいる。

3 「鍵屋」の一員である「市兵衛」ならば、自分のやり場のない思いを理解してくれるだろうと思つてゐたが、共感を得られなかつたばかりか取り合つてももらえず、いらだちを覺えている。

4 「弔兵衛」の素晴らしさを「市兵衛」に訴えたところ厳しく批判され、ともに働いていくことに嫌気が差したもの、今まで「市兵衛」には世話をなつてきたため、思いを口に出せずにいる。

(ウ) ——線3 「市兵衛はこちらの苦笑をちらりと一瞥し、それと分からぬくらいに頷くと、もそりと立ち上がつて行灯に歩を進めた。」とあるが、そのときの「市兵衛」を説明したものとして最も適するものを次の中から一つ選び、その番号を答えなさい。

1 人に頼ることなく行いを振り返つてゐる「弔兵衛」の姿をして大きな成長を認めつつ、見守ることしかできない寂しさを覚えてその場を離れようとしている。

2 皆の言葉から悩みを解決する手がかりを「弔兵衛」が見つけ出したと分かり、自分の考えは古びていて「弔兵衛」たちは受け入れがたいのだと痛感している。

3 自分の言動を「弔兵衛」が苦々しく感じていると氣付いたが、何をするべきか見失つてゐる「弔兵衛」を導くのは自身の役目だと信じて行動しようとしている。

4 振る舞い方を見つめ直してほしいという自分の思いに気付いた様子の「弔兵衛」を見て、口出しせども自ら答えを導き出すことができるだろうと感じている。

(イ)

——線4 「あたしは正しかった。でも、間違つてたんだ。」とあるが、そのときの「弥兵衛」を説明したものとして最も適するものを次の中から一つ選び、その番号を答えなさい。

1 皆で協力すれば世の中は変えられるという考えは正論だったが、世の中のために尽くすよう人々に求めても具体策が浮かばなければ受け入れられなくて当然だと、自身の言動を後悔している。

2 苦しんでいる人々のために力を尽くすという信条は正しかったが、自らの考えを言葉にして伝えようとした人には理解してもらえないのは当たり前だと、自身の言動を反省している。

3 強い気持ちを持つて苦しい状況を乗り越えるべきだという考え方は間違つていなかつたが、自分の信念を押し付けるだけでは人々の賛同を得られなくて当然だと、自身の言動を反省している。

4 資金を援助してもらうとともに出店を募つて現状を打破するという発想は良案だったが、人々をまとめる力がなければ手を貸してくれないのも無理はないと、自身の言動を振り返っている。
(オ) ——線5 「うちが全部被る羽目になるかも、ですぜ。」とあるが、ここでの「市兵衛」の気持ちをふまえて、この部分を朗読するとき、どのように読むのがよいか。最も適するものを次の中から一つ選び、その番号を答えなさい。

1 大きな損害を受ける可能性があると分かつた上で、それでも人々に寄り添つて後押しすることを決断した「弥兵衛」の思いを理解し、覚悟の強さを試すように読む。

2 皆で逆境に立ち向かうという「弥兵衛」の信念を尊重しつつ、事態を軽視して人々の要求を安易に受け入れる姿に心配を募らせ、考えの甘さをたしなめるように読む。

3 皆と協同するだけではなく、ひとりでもできることを摸索していく姿勢が必要だという「弥兵衛」の考えに共感を示すとともに、待ち受ける困難を気遣うように読む。

4 懸命に花火を作る姿を示すことこそが、人々に対する励ましになると氣付いた「弥兵衛」を誇らしく思いながらも、受ける被害が大きいことを理解させるように読む。

(カ)

この文章について述べたものとして最も適するものを次の中から一つ選び、その番号を答えなさい。

1 自身の正しさを考える中で、「市兵衛」を初めとした多くの人に支えられていることへの感謝の念を抱くとともに、世の中を立て直す覚悟を決めた「弥兵衛」のさまを、多彩な比喩を用いて描いている。

2 「鍵屋」の皆とのやり取りの中で、人の事情や気持ちに思いを至らせる大切さに気付いた「弥兵衛」が、世の中を明るくしようという決意を新たにするさまを、江戸っ子の言葉遣いを交えて描いている。

3 皆に自身の気持ちが伝わらないことに苦悩していた「弥兵衛」が、自らのあやまちに気付くことにより、上に立つ者としての自覚を持ち大きく成長していくさまを、「鍵屋」の皆の視点から描いている。

4 正しさに対する捉え方の相違から、衝突を繰り返していた「弥兵衛」と「市兵衛」が、お互いの本音を打ち明けて話し合うことを通して和解を迎えたさまを、回想を挟みこむことによつて描いている。

問四 次の文章を読んで、あととの問い合わせに答えなさい。

ネット上の莫大な情報へのアクセスibilityの拡大と、それらの情報の編集可能性の拡大は、私たちの知的生産のスタイルを大きく変えました。この変化の中で、今日、ネット情報をコピーしてレポートを作成する学生や、報道機関の記者が十分な取材をしないままネット情報を利用して記事を書いてしまい、後でその情報が間違っていたことがわかつて問題となるケースなどが生じています。

こうした状況を受け、レポートや記事を書く際、ネット情報の利用はあくまで補助的で、図書館にて直接文献を調べ、現場へ足を運んで取材をすべきだと主張する人もいます。他方、そんなことをしていっては変化に追いつけないので、ネット検索で得た情報をもとに書くことも認めるべき、さらに踏み込んで、書物や事典を参照して書くことと、ネット検索で得た情報をもとに書くこととの間に本質的な差はない¹と主張する人もいます。ネット情報と図書館に収蔵されている本の間には、そもそもどんな違いがあります。まず本の場合、誰が書いたのか作者がはつきりしていることが基本です。本というのは、基本的にはその分野で定評のある書き手、あるいは定評を得ようとする書き手が、社会的評価をかけて出版するものです。ですから、書かれた内容に誤りがあつたり、誰か他人の著作の剽窃²があつたりした場合、責任の所在は明確です。そこの本の作者が責任を負うのです。
(注)

これに対してネット上のコンテンツでは、特定の個人だけが書くというよりも、みんなで集合的に作り上げるという発想が強まる傾向にあります。作者性が匿名化³され、誰にでも開かれていることが、ネットのコンテンツの強みでもあります。そこでは複数の人がチェックしているから相対的に正しい²という前提があつて、この仮説は実際、相当程度正しいのです。つまり、本の場合は、その内容について著者が責任を取るのに対し、ネットの場合は、みんなが共有して責任を取る点に違いがあるわけです。

二つ目の、構造性における違いですが、これを説明するためには、「情報」と「知識」の決定的な違いを確認しておく必要があります。一言でいうならば、「情報」とは要素であり、「知識」とはそれらの要素が集まつて形作られる体系です。たとえば、私たちが何か知らない出来事についてのニュースを得たとき、それは少なくとも情報ですが、知識と言えるかどうかはまだわかりません。その情報が、既存の情報や知識と結びついてある状況を解釈⁴するための体系的な仕組みとなつたとき、そのニュースは初めて知識の一部となるのです。

知識というのはバラバラな情報やデータの集まりではなく、様々な概念や事象の記述が相互に結びつき、全体として体系をなす状態を指します。いくら葉や実や枝を大量に集めても、それらは情報の山にすぎず、知識ではありません。情報だけでは、そこから新しい樹木が育つてくることはできないのです。そしてインターネットの検索システムの、さらにはAIの最大のリスクは、この情報と知識の質的な違いを曖昧にしてしまうことにあると私は考えています。

▼ というのもインターネット検索の場合、社会的に蓄積されてきた知識の構造やその中での個々の要素の位置関係など知らなくても、つまり樹木の幹と枝の関係など何もわからなくとも、知りたい情報を瞬時に得ることができるのであります。つまり、ネットのユーザーや、その森のどのあたりがリンゴの樹の群生地で、その中のどんな樹においしいリンゴの実がなつていることが多いかを知らなくても、瞬時にちようどいい具合のリンゴの実が手に入る魔法を手に入れているようなものです。それで、その魔法の使用に慣れてしまふと、いつもリンゴの実ばかりを集め歩いて、そのリンゴが実っている樹の幹を見定めたり、そこから出ているいくつの枝の関係を見極めたりすることができなくなってしまうのです。

A

A-Iに至つては、ユーザーは自分がリンクを探しているのか、オレンジを探しているのかがわからなくとも、目的を達成するにはリンクが適切であることをA-Iが教えてくれて、しかもまだ検索しない間に、適当なリンクをいくつも探し出してきてくれるかもしれません。結局、私たちは検索システムやA-Iが発達すればするほど、自分で自分がどんな森を歩いているのかを知る能力を失っていく可能性があります。▲

本を読んだり書いたりすることが可能にするのは、これらとは対照的な経験です。少なくとも哲学や社会学、人類学、政治学、歴史学などの本に関する限り、⁵それらの読書で最も重要なのは、そこに書かれている情報を手に入れることではありません。その本の中には様々な事実についての記述が含まれていると思いますが、重要なのはそれらの記述自体ではなく、著者がそれらの記述をどのように結びつけ、いかなる論理に基づいて全体の論述に展開しているのかを読みながら見つけ出していくことなのです。この要素を体系化していく方法に、それぞれの著者の理論的な個性が現れます。

古典とされるあらゆる本は、そうした論理の創造的展開を含んでおり、よい読書と悪い読書の差は、その論理的展開を読み込んでいけるか、それとも表面上の記述に囚われて、そのレベルで自分の議論の権威づけに引用したり、自分との意見の違いを強調したりしてしまいかにあります。最近では、おそらくはインターネットの影響で、出版された本の表面だけをつまみ食いし、それらの部分部分を自分勝手な論理でつないで読んだ気分になつて書かれるコメントが蔓延^{まんえん}しています。著者が本の中でしている論理の展開を読み取れなければ、いくら表面の情報を拾い集めてみても本を読んだことにはなりません。

今のところ、必要な情報を即座に得るためならば、ネット検索よりも優れた仕組みはありません。この点で紙の本の読書は、ネットに敵わない。わざわざ図書館まで行つて、関係のありそうな本を何冊も借りて一生懸命読んでみても、知りたかった情報に行き当らないというのはよくある経験です。見当違ひの本を選んでしまったのかもしれません。借りてきた本を隅から隅まで読んでも、肝心なことは書かれていかなかったということも起ります。しかしネット検索ならば、はるかに短時間で、関係のありそうな本を読むよりもかなり高い確率で求めていた情報には行き当たります。B、ある単一の情報を得るには、ネット検索のほうが読書よりも優れているとも言えるのです。

それでも、本の読者は一般的な検索システムよりもはるかに深くそこにある知識の構造を読み取ることができます。これが、ポイントです。調べものをしていく、なかなか最初に求めっていた情報に行きつかなくとも、自分が考えを進めるにはもつと興味深い事例があるのを読書を通じて発見するかもしれません。それに図書館まで行つて本を探していたならば、その目当ての本の近くには、関連するいろいろな本が並んでいて、そのなかの一冊に手を伸ばすことから研究を大発展させるきっかけが見つかるかもしれません。このように様々な要素が構造的に結びつき、さらに外に対して体系が開かれているのが知識の特徴です。ネット検索では、このような知識の構造には至らない。なぜなら検索システムは、そもそも知識を断片化し、情報として扱うことによつて大量の迅速処理^{じんそくしょり}を可能にしているからです。

(吉見 俊哉「^{よしみ}知的創造の条件」から。一部表記を改めたところがある。)

(注) アクセシビリティ＝情報の利用しやすさのこと。

剽窃^{ひょうせき}＝他人の文章などを自分のものとして発表すること。
コンテンツ＝中身や内容物のこと。

(ア) 本文中の □ A □・□ B □ に入る語の組み合わせとして最も適するものを次の中から一つ選び、その番号を答えなさい。

- | | | | |
|---------|---------|----------|--------|
| 1 A ただし | B また | 2 A もし | B なぜなら |
| 3 A さらに | B したがって | 4 A たとえば | B しかも |

(イ) — 線1 「レポートや記事を書く際」とあるが、その際の考え方について筆者が紹介した内容を説明したものとして最も適するものを次の中から一つ選び、その番号を答えなさい。

- 1 本や取材内容に基づく必要性に言及する意見がある一方で、変化に対応するためネットの活用も認めるべきという考え方もあるうえ、参照物があるという点では何を参考にしても同じという意見もある。
- 2 ネットの普及で情報が容易に入手可能となり、情報をコピーして使うことへの抵抗は少なくなったが、ネットと本では情報の量や質が大きく異なることに留意しなければならないという意見がある。
- 3 本に載っている情報は使い古されている可能性が高いので、最新情報をネットで入手することを推奨する意見もあれば、情報源が何であっても情報自体の価値に大きな差は生じないという意見もある。
- 4 補助的な資料にとどめさえすればネットの活用は認められるべきだが、完成度を高めるためには、本を調べたり現地を訪れたりすることによつて集めた情報を再検証することが必要だという意見がある。

(ウ) — 線2 「相対的に正しい」とあるが、それを説明したものとして最も適するものを次の中から一つ選び、その番号を答えなさい。

- 1 ネットの情報は、多数の利用者がともに作成し、確認できる性質を持つているため、ある程度の正しさが保持されているということ。
- 2 ネットの情報は、誰もが編集可能であり、訂正が迅速に行われる性質を持つため、本の情報と比べて正しさの度合いが高いということ。
- 3 ネットの情報は、誰でも閲覧でき、専門家の知恵が集結しやすい性質を持っているため、普遍的な正しさが保証されているということ。
- 4 ネットの情報は、複数の人で点検を行い、隨時共有できる性質を持つため、本とは異なり誰にでも正しさの判断が可能だということ。

(エ) — 線3 「私たちが何か知らない出来事についてのニュースを得たとき、それは少なくとも情報ですが、知識と言えるかどうかはまだわかりません。」とあるが、その理由として最も適するものを次の中から一つ選び、その番号を答えなさい。

- 1 多くの情報の中から課題解決に役立つものを見つけたとき、初めて知識として皆と共有されるから。
- 2 新しく情報を得ても、活用して新しい何かを生み出さない限り知識としての価値を持たないから。
- 3 様々な情報が結びつき体系をなしたとしても、多くの人に知識として認識されるとは限らないから。
- 4 新たな情報は既知の事柄と統合され、系統立った状態となることで知識と呼べるようになるから。

(オ)

——線4「リンゴが実つてゐる樹の幹を見定めたり、そこから出でてゐるいくつもの枝の関係を見極めたりすることができなくなつてしまふ」とあるが、このリンゴのたとえが示す内容を説明した次の文中の□I・□IIに入れる語句として最も適するものを、本文中の▼から▲までのの中から、□I・□IIについては六字で、□IIについては十字でそれぞれ抜き出し、そのまま書きなさい。

インターネット検索によつて、□Iだけを得る習慣がついてしまうと、知識の体系的な仕組みや、その中にある□IIを捉えることができなくなつてしまうということ。

(カ) ——線5「それらの読書で最も重要なのは、そこに書かれている情報を手に入れることではありますん。」とあるが、その理由として最も適するものを次の中から一つ選び、その番号を答えなさい。

1 読書においては、情報を読み取ることに意味があるのではなく、著者の意見を踏まえた上で書かれている記述を結びつけ独創的な結論を導き出すことにこそ意味があるから。

2 読書においては、入手した情報そのものが重要なのではなく、書かれている事柄のつなげ方や論述の仕方などといった著者独自の論理展開を読み解くことこそ意味があるから。

3 読書においては、収集した情報を吟味^{（ひんみ）}することが大切なのではなく、自分なりに著者の論述を読み込んだ上で自らの考えと結びつけて展開していくことこそ価値があるから。

4 読書においては、読み取った情報 자체に価値があるのではなく、情報同士の関連性や引用事例を分析^{（せきせき）}することでわかる著者の個性豊かな表現技法を知ることこそが重要だから。

(キ) ——線6「本の読者は一般的な検索システムよりもはるかに深くそこにある知識の構造を読み取ることができます。」とあるが、それを説明したものとして最も適するものを次の中から一つ選び、その番号を答えなさい。

1 読者は、本を読んだときに見当外れな情報しか発見できない場合も多くあるため、集めた事柄の関係性を推察して知識として蓄積する力が養われる可能性があるということ。

2 読者は、興味のある事例を調査する過程で正確かつ専門性の高い情報を得る機会に恵まれてゐるため、難解な知識を習得して思考を深化させられる可能性があるということ。

3 読者は、無関係な複数の事例を収集した上で新たな関連性を見つけることを目的として本を読むため、多種多様な知識に対する理解度を高められる可能性があるということ。

4 読者は、本を読むことによつて想定外の価値ある事柄や関連する他の事象に出会えることもあるため、単なる情報にとどまらない知識を得られる可能性があるということ。

(ク) 本文について説明したものとして最も適するものを次の中から一つ選び、その番号を答えなさい。

1 本の情報が軽視されている現状を作作者性という視点から指摘^{（しきてき）}した上で、ネットに依存する危険性についても検索システムの特徴を説明する中で触れ、知識の構造を正確に捉える難しさを論じている。

2 本とは異なるネット情報の性質を説明するとともに、AIの発達に伴つて失われていく能力にも触れた上で、検索システムを用いずに得られる知識の有用性について具体例を交えつつ論じている。

3 ネットと本の情報についてそれぞれ誰が責任を負うのか述べるとともに、情報と知識の違いを説明した上で、読書による知識の構造化を検索システムを用いた情報処理と比較しながら論じている。

4 誰にでも開かれているために要素のつながりが捉えやすいというネット情報の特徴を述べた上で、検索システムが情報を断片化して扱うことの弊害^{（へいかい）}に触ながら、読書がもたらす効能を論じている。

問五

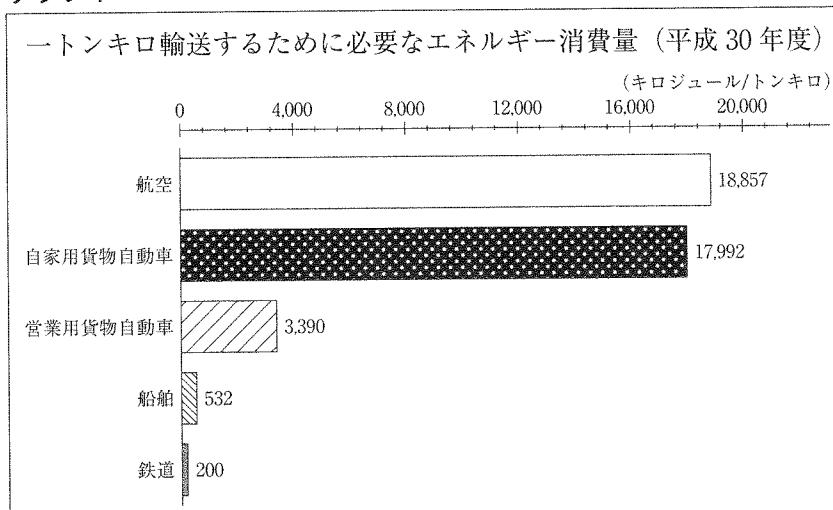
中学生のAさん、Bさん、Cさん、Dさんの四人のグループは、国語の授業で行われるモーダルシフトをテーマにしたディベートに向け、日本の貨物輸送の現状について調べ、話し合いをしている。次の表、グラフ1、グラフ2と文章は、そのときのものである。これらについてあとの問い合わせに答えなさい。

表

調査年度	輸送方式ごとの国内貨物輸送量 (万トン)				
	自動車	船舶	鉄道	航空	総輸送量
平成 5 年度	582,154	52,884	7,926	86	643,050
平成 10 年度	581,988	51,665	6,037	102	639,791
平成 15 年度	523,408	44,554	5,360	103	573,426
平成 20 年度	471,832	37,871	4,623	108	514,432
平成 25 年度	434,575	37,833	4,410	103	476,922
平成 30 年度	432,978	35,445	4,232	92	472,747

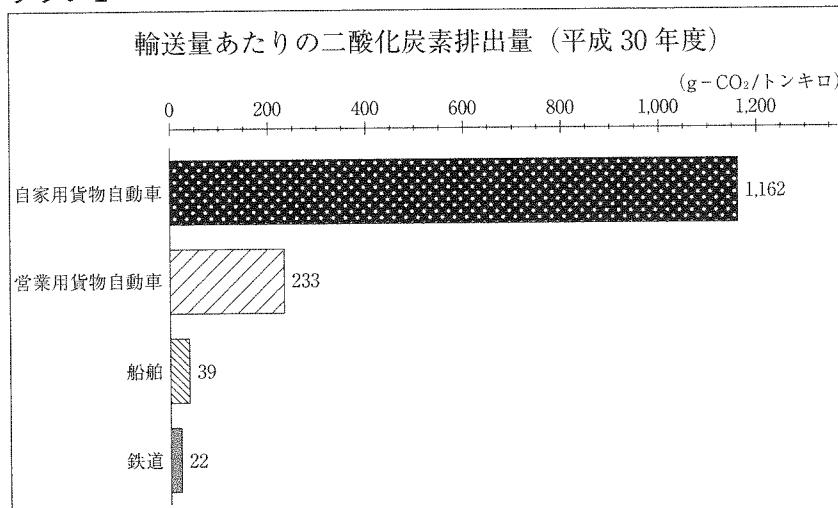
国土交通省「国土交通白書」より作成。

グラフ1



日本内航海運組合総連合会「内航海運の活動・令和2年度」より作成。

グラフ2



国土交通省ホームページより作成。

Bさん

輸送方式ごとにまとめたものです。これを見ると、航空や自家用貨物自動車のエネルギー消費量を、

Aさん

このような問題を解決に導くためにモーダルシフトを進めることとは有効であるという方向で、ディベートの準備を進めましょう。

Dさん

また、日本の貨物輸送に関して、地球温暖化や大気汚染といった環境問題や、労働者不足などの問題が生じていることもあります。

Cさん

では、表を見てください。国内貨物の輸送量を見ると、□ことがわかります。

Aさん

今回のディベートのテーマであるモーダルシフトとは、様々な問題を解決するためには、ある輸送方式を他の輸送方式に転換することです。日本の貨物輸送の課題に対する取り組みの一つとして、国が推進しているものです。

Bさん

私たちは今回のディベートでは、モーダルシフトを進めることに賛成という立場で意見を述べることになっています。まず、モーダルシフトの利点をまとめるために、日本の貨物輸送の現状を確認しておきましょう。

は、他の輸送方式と比べて非常に多いことがわかります。

Cさん つまり、船舶や鉄道には、それらと比べてエネルギー消費量を抑えられるという利点があるのですね。貨物自動車よりも船舶の方が大きいのでエネルギー消費量も多いと思つていましたが、そうではないとわかりました。

Aさん そうですね。では、モーダルシフトを進めていくと、他にはどのような効果が期待できるでしょうか。

Dさん グラフ2を見てください。輸送量あたりの二酸化炭素排出量を輸送方式ごとにまとめたもので

す。自家用貨物自動車の二酸化炭素排出量は、他の輸送方式と比べて非常に多くなっています。

Cさん 営業用貨物自動車の二酸化炭素排出量は、自家用貨物自動車と比べると少ないものの、船舶や

鉄道と比べると多いことがわかります。

Bさん 二酸化炭素は、地球温暖化や、それに伴う異常気象の発生といった問題の要因と言われています。

二酸化炭素排出量が少ない船舶や鉄道に輸送方式を転換することは、このような問題を解決する手立ての一つとなりそうですね。

Dさん これまでの話をまとめましょう。グラフ1とグラフ2から読み取った内容から、モーダルシフトを進めていくと、□という効果があると考えられます。

Bさん しかし、モーダルシフトは思ったほど進んでいないようです。国がモーダルシフトの推進を表明しているにもかかわらず、期待どおりには進展していない理由として、貨物自動車は他の輸送

方式と比べて小回りがきき、便利であることがあげられます。

Cさん デイベートでは、その点が反論として出てきそうですね。しかし、ただ利便性を追求するのではなく、生じている問題を認識し、何ができるかを考えて行動することが大切だと思います。

Dさん そのためにも、それぞれの輸送方式の特徴を理解した上で、適している輸送方式を考えて転換していくことが求められそうです。

Aさん ここまででは、モーダルシフトを進めることの意義について、環境問題の解決という切り口で話しあつきました。他の問題における効果についても検討するとともに、反論を退ける際に必要となる資料を集めながら、引き続き準備を進めていきましょう。

(ア) 本文中の□に入るもとのとして最も適するものを次の中から一つ選び、その番号を答えなさい。

- 1 平成30年度は平成5年度と比べて、国内貨物の「総輸送量」が三分の二以下になつている
- 2 平成30年度の国内貨物の「総輸送量」に占める「自動車」の割合は、九割以上である
- 3 平成30年度の「鉄道」の貨物輸送量は、「船舶」の貨物輸送量の十分の一以下である
- 4 平成30年度は平成5年度と比べて、「航空」の貨物輸送量が一割以上減少している

(イ) 本文中の□に適する「Dさん」のことばを、次の①～④の条件を満たして書きなさい。

- ① 書き出しのモーダルシフトを進めていくと、という語句に続けて書き、文末の□という効果があると考えられます。

② 書き出しどと文末の語句の間の文字数が三十字以上四十字以内となるように書くこと。

③ グラフ1とグラフ2からそれぞれ読み取った内容に触れていること。

④ 「環境問題」という語句を、そのまま用いること。

(問題は、これで終わりです。)

国語 解答用紙

(令和三年度)

問一			
(エ)	(ウ)	(イ)	(ア)
①	①	①	①
②	②	②	②
③	③	③	③
④	④	④	④

各四点

問一			
(エ)	(ウ)	(イ) (ア)	
d	c	b	a
①	①	①	①
②	②	②	②
③	③	③	③
④	④	④	④

各一点

受検番号									
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
3	3	3	3	3	3	3	3	3	3
4	4	4	4	4	4	4	4	4	4
5	5	5	5	5	5	5	5	5	5
6	6	6	6	6	6	6	6	6	6
7	7	7	7	7	7	7	7	7	7
8	8	8	8	8	8	8	8	8	8
9	9	9	9	9	9	9	9	9	9

氏名

受検番号は左から書くこと。

問五	
(イ)	(ア)
①	②
③	④

*解答欄は裏面にあります。

問四							
(ク)	(キ)	(カ)	(オ)	(エ)	(ウ)	(イ)	(ア)
①	①	①	①	①	①	①	①
②	②	②	②	②	②	②	②
③	③	③	③	③	③	③	③
④	④	④	④	④	④	④	④

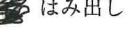
アは二点、オは両方できて四点、他は各四点

問三						
(カ)	(オ)	(エ)	(ウ)	(イ)	(ア)	
①	①	①	①	①	①	①
②	②	②	②	②	②	②
③	③	③	③	③	③	③
④	④	④	④	④	④	④

各四点

注意事項

- 1 HBまたはBの鉛筆(シャープペンシルも可)を使用して, 〇の中を塗りつぶすこと。
- 2 答えを直すときは, きれいに消して, 消しきずを残さないこと。
- 3 数字や文字などを記述して解答する場合は, 解答欄からはみ出さないように, はっきり書き入れること。
- 4 解答用紙を汚したり, 折り曲げたりしないこと。

良い例	悪い例		
			はみ出し
			うすい



氏名

問一

(ア)

4	3	2	1
---	---	---	---

(げる)

問四

(オ)

II

I

--

問五

(イ)

モーダルシフトを進めていくと、

という効果があると考えられます。

40

30

受検番号

--	--	--	--

Ⅱ 国語 正答表並びに採点上の注意

(令和三年度)

問三						問二						問一									
(カ)	(オ)	(エ)	(ウ)	(イ)	(ア)	(エ)	(ウ)	(イ)	(ア)	(エ)	(ウ)	(イ)	(ア)	d	c	b	a	4	3	2	1
2	1	3	4	3	2	4	3	1	2	4	1	4	3	1	2			と (げる)	せきべつ	しうあく	あいさつ
4点	2点	2点	2点	2点	2点	2点	2点	2点	2点	2点	2点										

問五										問四										
(イ)									(ア)		(オ)					(エ)				
ク	キ	カ	II	I	位	個	々	の	要	知	り	た	い	情	報	エ	ウ	イ	ア	
3	4	2			モードルシフトを	2				4	1	1		3						
つながる	題め、	量も	化炭	少し	消費	工ネ	モードルシフトを	2	進めしていくと、	位置関係	個々の要素の	知りたい情報								
が解決する	環境問題	減る排出	素二酸	少量が減	二酸	工ギ														
るに問題	た出	た出	酸	が減	酸	工														
40																				
(イ)は正答例。										6	4点	4点	4点	4点	4点	4点	4点	4点	2点	

という効果があると考えられます。

40

点

採点上の注意

【問題全般について】

○ 中間点は、問五(イ)以外には設けないこと。

○ ○ 疑問点は複数の採点者及び点検者によって判断し、校内で統一すること。

○ 誤字・脱字（句読点に係る誤りを含む）の判断については、校内で統一すること。

【抜き出し問題について】

○ 完全正答とする。誤字・脱字については減点対象とはせず、誤答とする。

【中間点のある記述問題について】

○ 正答例以外であっても、与えられた条件をすべて満たし、問題の趣旨に即した文ならば、正答として六点を与える。

○ 内容については、中間点を設けないこと。

○ ○ 誤字・脱字（句読点に係る誤りを含む）については、その数にかかわらず二点減点とする。

○ 表現に問題があり、それによって明らかに問題の趣旨から外れている、内容を読みとることができない等の場合は、誤答とする。ただし、許容できると判断した場合は、その数にかかわらず二点減点とする。表現の問題については、複数の採点者及び点検者によって判断し、校内で統一すること。

○ 中間点は、誤字・脱字（句読点に係る誤りを含む）がある場合と表現に問題がある場合の減点以外は設けないこと。したがって、中間点は四点または二点となる。

○ 指定語句がある場合、その語句が含まれていない解答は誤答とする。また、指定語句がそのまま書かれていない場合（漢字表記をひらがな表記にしたもの等）や指定語句の誤り（誤字・脱字）についても誤答とする。

○ 問五(イ)について

・ 指定語句は「環境問題」である。

得点項目A

内容については、次の三点に触れていること。

- (a) 「エネルギー消費量が減少する」こと。
- (い) 「二酸化炭素排出量が減少する」こと。
- (う) (あと)「環境問題の解決につながる」こと。

へ正答例へ

モーダルシフトを進めていくと、

二酸化炭素排出量やエネルギー消費量が減少するため、環境問題の解決につながる
という効果があると考えられます。

モーダルシフトを進めていくと、

エネルギーを効率よく消費でき、二酸化炭素の排出量が減るので……、環境問題解決に役立つ
という効果があると考えられます。

モーダルシフトを進めていくと、
環境問題の解決に向け、エネルギー消費量や二酸化炭素排出量を……抑える」とができる
という効果があると考えられます。

30 ---
40 ---

30 ---
40 ---

40 ---

40 ---